

[産婦人科]

[研修の目標]

臨床医として必須の知識と技術を習得する。特に女性特有の救急疾患を診断・評価し、かつ適切な処置ができる。周産期医療全般を理解し、分娩から新生児取り扱いまで幅広く対応できる技術を習得する。婦人科疾患の診断から治療まで幅広く理解し、骨盤内手術の助手が務まるようにする。

[研修指導医]

芹沢麻里子（周産期センター・メディカルバースセンター長、産婦人科医長）

日本産科婦人科学会専門医・指導医、日本周産期新生児学会専門医・指導医、
日本超音波学会専門医・指導医、日本女性医学会暫定指導医、母体保護法指定医、
新生児蘇生法インストラクター、ALSO インストラクター、
JCIMELS ベーシック・アドバンスコース インストラクター、
女性ヘルスケアアドバイザー、小児周産期リエゾン、浜松医科大学臨床教授

松井浩之（産婦人科部長）

日本産科婦人科学会専門医、日本周産期新生児学会専門医・指導医、
母体保護法指定医、新生児蘇生法インストラクター、浜松医科大学臨床教授

[研修コース・選択必修科]

一般臨床医に求められる産科婦人科疾患の基本的な診察知識・手技を習得する研修。
希望に応じて研修期間を変更できる。

[研修指導体制]

産婦人科指導医のもと、産婦人科専攻医とともに研修を行う。

[研修内容および到達目標]

- (1) 妊娠分娩（正常妊娠、流産、早産、正常分娩、産科出血、乳腺炎、産褥、合併症妊娠、
異常分娩（帝王切開・吸引鉗子分娩）、母子手帳の理解、新生児診察）
★正常妊娠・分娩・新生児に対応できることを最低限の目標とする。
- (2) 女性生殖器およびその関連疾患（月経異常（無月経を含む）、不正性器出血、更年期障害、
外陰・膣・骨盤内感染症、婦人科腫瘍（良性・悪性））、
★上記を踏まえ急性腹症の鑑別と産婦人科手術の第2助手以上が行うことができる。